フィールド（現場）からの風 ㊼

宮田守男

ほめ続ける大切さを考えよう

今日29日は「二重苦」と読めるために餅つきも「苦餅」を連想させると避ける地域が多いが、地域によっては29日を「ふく」と読み、逆に福を呼ぶ日として「福餅」をつくところもある。

西日本新聞のコラム春秋さんが、これまで「あれもダメ、これもダメ」と判断してしまう知識に、評論家の荻上チキさんの著書『絶望から抜け出すポジ出しの思想』で僕らはいつまでダメ出し社会を続けるのか。ポジはポジティブ（積極的・肯定的）の略で、ダメだしの対極。無益な個人たたきや、意見・提言へのバッシング合戦をやめにして、建設的な改善策を示そう。その積み重ねが社会を良くするとの唱えを伝えている。

夢を持つことを子どもや若者に押し付ける「夢ハラスメント」を高部大聞さんの著書『ドリーム・ハラスメント』で夢は無条件に良いもので、より良い人生を送るためには必要不可欠だと、考えない社会が求められていると記している。ダメ出しではなく、家族や地域の皆さんを褒め続けようと考えるべきではないだろうか。

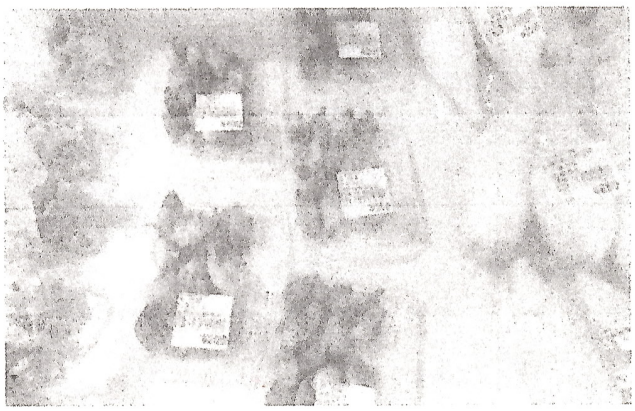
冬季シーズンを迎え大勢の皆さんが地域を訪れている。海外を中心にトコジラミ（ナンキンムシ）の大量発生や被害が報告されている。トコジラミはカメムシの仲間で体調5～8ミリ。かまれると赤く腫れて、猛烈なかゆみに襲われるため、部屋が清潔か不潔かにかかわらずトコジラミは潜んでいると注意を呼び掛けている。

多くの害虫が冬を越すことができない中、トコジラミは越冬するため、冬にトコジラミがいなくなっていると勘違いせずに、季節が暖かくなって手が付けられなくなる前に、トコジラミの冬の生態を観光地として知るべきだ。寒さに耐え、飢餓状態でも長期間生き、特に宿泊施設などはトコジラミにとっては快適な空間の零度で6カ月、10度で2年近く生存したとの報告もある。

日本の夏は一番の産卵期で、メスは交尾で5日程度で産卵、1日に5～6個卵を産み落とし、生涯に300～500個の卵を産み、爆発的な脅威となる。

トコジラミは熱に弱く熱で死滅させるなど駆除方法が情報発信されているので、この冬から積極的にトコジラミに関心を持ち、被害が少ないからと油断せずに衛生的な安心を提供することが観光地としての役割だと考えるべきなのだろう。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）



12月下旬信州新町の道の駅・地場産コーナーに「ふきのとう」の出荷。温暖化の影響か季節感が薄れていく思いがよぎる